

Q: 口腔前がん病変から口腔潜在的悪性疾患に用語変更になったそうですが、詳しく教えてください。

<はじめに>

2017年に改訂されたWHOの頭頸部腫瘍分類（第4報）で、oral potentially malignant disorders（口腔潜在的悪性疾患）という用語が提示されました。近年歯科医師による口腔がん早期発見の機運が高まっていることに伴い、口腔がんの前駆病変についての正しい知識をもつことが必要になっています。今回はその内容についてお示し致します。

<WHOによる口腔がんの前駆病変の名称、定義、対象疾患の変遷>

WHOは口腔領域の腫瘍分類を1971年、1997年、2005年、2017年に改訂を行ってきました。第4版（2017年）において、口腔がんの前駆病変が口腔潜在的悪性疾患と改称されました。該当疾患として、①紅板症、②紅白板症、③白板症、④口腔粘膜下線維腫症、⑤先天性角化異常症、⑥無煙タバコ角化症、⑦逆喫煙のよる口蓋角化症、⑧慢性カンジダ症、⑨扁平苔癬、⑩円板状ループスエリテマトーデス、⑪梅毒性舌炎、⑫光線性角化症、の12疾患が列挙されています。

このうち日常臨床でも遭遇することの多い疾患は、白板症、紅板症、紅白板症、扁平苔癬、慢性カンジダ症などです。慢性カンジダ症は第4版で初めて口腔がん前駆病変として記載されました。高齢者や全身状態不良の患者に見かける白苔を特徴とするのは急性偽膜性カンジダ症といい、白斑や偽膜は容易に拭いとることが可能です。慢性カンジダ症は不規則な厚さの白板症様の病態で拭いとることは難しく、口腔がんと関係があります。痛みを伴う白板症様病変では慢性肥厚性カンジダ症を疑って検査をすることをお勧めします。梅毒性舌炎は稀ですが、梅毒患者の増加に伴って今後遭遇する機会があるかもしれません。



左上：舌の白板症

右上：頬粘膜・口蓋・舌に広がる
紅白板症



左下：口腔扁平苔癬

右下：頬粘膜の慢性肥厚性カンジダ症